



Weekly Report

創立:1980年(昭和55年)1月10日

会長:大島 浩嗣

幹事:稲葉 徹

会報委員長:高木 勝

例会日:例 毎週木曜日 PM12:30~

会場:ビルトン名古屋

事務局:460-0008

名古屋市中区栄1丁目3-3

ビルトン名古屋910号

TEL:052-211-3803

FAX:052-211-2623

Mail:2760nagoya@mizuho-rc.jp

URL:http://www.mizuho-rc.jp/

CELEBRATE ROTARY

2004~2005年度 国際ロータリーのテーマ ロータリーを祝おう 2004~2005年度 R.I会長グレンE.エステス・シニア

第1214回例会

~世界理解月間~

2005年2月3日(木) 晴 第28回

- 司会:(船渡昭人会場委員)
- 体操:ストレッチング(入江理会場委員)
- 斉唱:「君が代」「奉仕の理想」
- ゲスト:2003~04年度青少年帰国学生 堀 由紀恵様
北川 詩野様
森 榮様
ステイーブン・セドラク君
鈴木 道子様
(伊藤豪親陸活動副委員長)
- 青少年交換委員
- 青少年交換学生
- ホストファミリー

会長挨拶

大島浩嗣会長

今日、2月3日は節分、明日は立春です。節分とは季節の分かれ目という意味で、旧暦では立春、立夏、立秋、立冬の前日は全て節分で、年4回ありました。しかし今日では節分といえば立春の前日のみを言うようになってしまいました。昔は立春正月月といって、立春が元旦でしたから、節分は大晦日に当たり、厄落としをして新しい年を迎えました。



中国では人生の災禍は鬼が人に振りまくものであると信じられ、鬼を追い払う事が人生の幸福を得る手段でありました。そのような訳で、すでに紀元前3世紀の秦の時代から鬼を追い払う「追儺」すなわち「鬼払い」の儀式が行われていました。「追儺」は大晦日の夜に疾病や災害を鬼にたとえてこれらを追い払うための行事でした。この風習は遣唐使によって日本にもたらされましたが、室町時代には減じて変わって「節分の豆撒き」となりました。「福は内」「鬼は外」と煎った大豆をまく習慣は南北朝時代に始まったと言われていま。豆撒きの豆は「福豆」といい、年より1つ多く食べると来年も幸福になるといいます。中国の陰陽五行説では東北の方向は恐ろしい鬼のいる所で「鬼門」と呼び、十二支の丑虎の方向に当たるので、鬼は牛のような角と、虎の牙とを持ち、虎の皮のふんどしをした独特のスタイルが出来上がったそうです。「鬼門」を忌み嫌う風潮は、現在でも家を建てる時などに見られますが、平安時代、京都に都を移した時、京都御所の東北に当たる比叡山に延暦寺を建てて、今日の都の安泰を願ったのは有名な話であります。いずれにしても、古代には大豆は五穀の一つとして大変貴重な食品でした。また薬としても大切で、生大豆をすりつぶしてできものに塗ったり、煮汁を解毒剤や胃腸病の薬として使っていました。現在では大豆は「畑の蛋白」といわれ、豆腐関連の食品は植物性蛋白質として健康によい食べ物の代表であります。どうぞたくさん豆を食べて、まめに暮らして頂きたいと願っております。

幹事報告

稲葉 徹幹事

- 本日例会終了後、13時35分より「第5回クラブアッセンブリー」及び「第8回理事会」を9階「ことぶきの間」にて開催致します。関係各位はご出席お願い致します。
- 2005~2006年度ロータリー全国名簿と会員手帳の注文案内を皆様のメールボックスに入れてあります。全国名簿はCD-ROM版で8,925円です。会員手帳の代金は会費に含まれておりますので無料です。

出席報告

稲垣豊出席委員

会員75名 出席63名 (出席計算人数56名)

出席率82.27%

1月27日は補填により 89.09%

1月20日は補填により 98.18%

1月13日は補填により 96.36%

臨時例会変更のお知らせ

名古屋南			2/23(水)	
名古屋北	2/11(金)※	2/18(金)※		
名古屋みなと	2/11(金)※	2/18(金)		
名古屋東南			2/23(水)	
名古屋中				2/28(月)
名古屋和合				3/2(水)
名古屋名東	2/8(火)			3/1(火)
名古屋名北				3/2(水)
名古屋千種		2/15(火)	2/22(火)※	
名古屋大須		2/17(木)		
名古屋名南		2/15(火)◇	2/22(火)◇	
名古屋名駅			2/23(水)	
名古屋昭和		2/14(月)		
名古屋空港			2/21(月)	
豊山一城北			2/22(火)	

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。

◇はサイン受付時間が17:30~18:30となります。

2月誕生日おめでとう

- 田中 政雄君 宇佐美貞夫君 守谷 巖樹君 亀井 直人君
- 近藤 洋輔君 宗宮 信賢君 馬場 将嘉君 松井 善則君
- 中川啓二郎君 増田 盛英君

ニコボックス

堀 慎治ニコボックス委員

- ・本日は宜しくお願い致します。青少年交換委員 森 榮様
- ・今月は私の誕生日です。近藤 洋輔君
- ・2月5日は誕生日です。守谷 巖樹君
- ・2月19日は私の55才の誕生日です。馬場 将嘉君

・2月25日は妻の誕生日です。いくつになったのかな。

大川 嘉成君

・2月3日は愛する妻の誕生日です。

高村 博三君

・2月19日は妻の誕生日です。

宮崎 信次君

・地区ローターアクトの行事が多くて、ホームクラブの欠席が続きました。

遠山 堯郎君

・1月31日より吉木先生にお世話になっています。大島 浩嗣君

・本日、初午祭でした。熱田神宮の井上さんに来社頂き、無事終了しました。鈴木 幹雄君

卓話 2003～04年度青少年交換帰国学生 堀由紀恵様 北川詩野様

「2003～04年度 青少年交換についての体験談」

2003～04年度 青少年交換学生 北川詩野様

皆さんこんにちは、2003年8月3日～2004年7月18日までフィンランドのカヤニという所に派遣されていました北川詩野と申します。まずはじめに日本であまり馴染みのない国フィンランドについてお話ししたいと思います。フィンランドはロシアの隣国で日本から一番近いヨーロッパの国で、ロシアとスウェーデンに挟まれています。面積は約338,000キ口、日本の約9割で、4分の1は北極圏にあります。人口は約500万人です。私の住んでいた町カヤニはフィンランドの中央に位置し、内陸部にあります。人口は約35,000人。気候は冬にはマイナス30度まで下がりました。寒いと言うよりはヒリヒリとした感じで痛かったです。



この1年で経験した数多くの出来事の中で、忘れられない体験についてお話ししたいと思います。1つはマイナス20度の中、寒中水泳をした事です。気温はマイナス20度ですが、水の中は0度ぐらいです。最初は寒いというより痛かったです。あまりの冷たさに寒さを感じる事も出来ませんでした。けれどもその後に入るサウナはとても最高でした。またフィンランドといえば、オーロラです。私は4回ほどオーロラを見る事が出来ました。最初見た時はとても神秘的で感動しました。他に強く印象に残った出来事としては、5月の終わりから3週間かけて他の留学生100人と行ったヨーロッパツアーです。ヨーロッパ9カ国をバスで回りました。スケジュールもびっしり詰まっていた楽しい反面、大変疲れました。ですが3週間ずっと一緒に過ごした仲間との別れが、仲良くなった分だけとても辛かったです。今でもかけがえのない思い出となっています。そして4週間経った頃からフィンランド語もある程度分かるようになり、少しずつ話し始めました。そのころには生活にも慣れ、学校も楽しくなり、友達といろいろな所へ出かけたり、ホストファミリーと他愛もない話をしたりと…今思うと一生の宝物になっています。楽しかった事もありましたが辛かった事の方が多かったと思います。はじめはやはり言語に躓きました。相手のいっている事が分からず、自分の思っている事も伝える事が出来ずとても悔しい思いをしました。この1年で母国から離れ、客観的に日本を見る事で、日本の良い点、悪い点、フィンランドの良い点、悪い点を見る事が出来ました。大陸や文化、言葉がどんなに違っていたとしてもみんな同じ人間で、同じ考えを持つ人もいるんだなと思いました。たとえ言葉が通じなくても、同じ作業を一緒にやるというだけで同じ気持ちになれるという事はすごい事だと思いました。同時に自分の無知さも痛感しました。日本人にもかかわらず、日本についての質問をされても答える事が出来ませんでした。ですからもっと日本の事を勉強したいと思います。将来はこの経験を生かし、世界の人々とつながりを持てるような仕事に就けたらと思っています。

このロータリーのプログラムに参加し、この1年で感謝する事の大切さ・すばらしさを改めて知り、自分の意志をはっきりさせる事が出来るようにもなりました。このプログラムに参加させてもらい、今まで見守ってくれていた家族やフィンランドでお世話になったホストファミリー、この様なかけがえのない1年を与えてくれた事に心から感

謝しています。2003年～2004年までの1年は一生忘れられない1年となりました。

2003～04年度青少年交換学生 堀由紀恵様

皆さんこんにちは。2003年8月末から11ヶ月間、フランスのポルドーの近くにあるトネンスという街に留学をさせて頂きました堀由紀恵です。まずはじめにトネンスという街についてお話しします。トネンスは小さな街で、ポルドーから電車で2時間ほどかかります。面積は名古屋の2～3倍の広さで、人口は1万人しかいませんが、1人当たりの土地面積が大きく、何もかもが壮大な感じがしました。自然も多くあり、普段接する事の出来ない環境で、大変いい街だと思いました。



まず一番に印象に残っている事です。3つのホストファミリーとロータリークラブの事です。ホストファミリーにも恵まれ、ロータリークラブの方々も本当に親切でした。ホストファミリーには4ヶ月間ずっとお世話になりましたが、本当の家族のように扱ってくれました。ロータリーのみなさんは、日本のロータリーの方々と違い、お酒や食事、ジョークなどがとても好きで、例会に参加する前はどんな質問をされるのかと不安ばかりが募っていましたが、実際には明るく愉快な方ばかりで、毎日でも例会に参加したいと思えました。私が学校でうまくいかなかった時には、すぐに駆けつけてくれ先生方とのコミュニケーションの取り方も教えて頂きました。留学先ではいろいろな経験をしました。中でも3番目のホストファミリーは農家で、週に2～3回市場へ出掛けて野菜を売る手伝いをしました。いろいろなお客さんと接するうちにフランス語にも日本と同じように方言がある事に気がつき、とても貴重な体験をしました。次に学校に初めて登校した時、英語で挨拶をしようと思っていたら、「こんにちは」や「ありがとう」ぐらいなら知っている人も多く、積極的に話しかけてくれました。学校では自由研究みたいなものがあり、広島・長崎の原爆についてレポートをまとめました。発表した所、大変好評で生徒の親からもレポートがほしいといわれました。まだフランス語があまり話せませんでした。共通の話題においては興味を持ってくれるということがわかり、フランス人も日本人もお互いうまくやっていく事が出来るんだと言う事を感じました。他にも留学生の集まりが月に1～2回有り、はじめは英語もともに話す事が出来ず、参加する事がとても苦痛に感じられました。ですが勉強をしてフランス語を少し話すことができるようになると、会話が成り立ち、コミュニケーションもとる事が出来るようになりました。最後にお別れ会があり、私は日本の紹介をフランス語でしました。単語を交えてのスピーチでしたが、みんなが一生懸命聞いてくれて、終わったあとにはいろいろな感想をもらう事が出来ました。まずは話す事が大事なんだ、と感じるようになりました。国や言語の違いはありますが、自分の考えを話してみる事でお互いを理解し合え、コミュニケーションをとる事が出来るんだと思いました。そのような考えをする事が出来る様になったのは、ひとえにホストファミリーや、ロータリーのみなさんの温かい励ましや、応援のおかげだと思っています。1年間の留學生活の中で、楽しい事もありましたがつらい事も多く、そんなときにメールをくれた友達や電話や手紙をくれた家族、影ながら応援してくれた先生、そして江南ロータリーの方々の応援のおかげで留學生活をする事が出来たのだと感謝しております。また機会があれば留学をしてみたいと思っています。ありがとうございました。

今週卓話

2月10日(木)

卓話講師：文化研究員 野村辰美氏
テ — マ：「熱田神宮と頼朝・義経」

次回卓話予定

2月17日(木)

卓話講師：ハンガー・フリー・ワールド ウガンダ支部担当 吉田千代子様
テ — マ：「学校へ行きたい～ウガンダ共和国の子どもたちとその現状」